

【SR-9 定性的システマティックレビュー】

CQ	8	抗悪性腫瘍剤の血管外漏出に対して、ステロイド軟膏塗布は推奨されるか？
P		抗悪性腫瘍剤の血管外漏出が起こった（疑われる）患者
I		ステロイド軟膏塗布をする
C		ステロイド軟膏塗布をしない
臨床的文脈		治療

01		外科的処置（デブリ・植皮）
非直接性のまとめ		報告症例では植皮が行われているが、EV発症直後のデブリについては明記されておらず効果の評価はできない。
バイアスリスクのまとめ		症例報告であり、患者背景に応じた医療がなされていることを考慮し、バイアスリスクはないと判断した。
非一貫性その他のまとめ		特記すべき事項はない。
コメント		報告は1文献（症例報告）のみであり、前向き研究等の報告がなく、有用性の評価が難しい。

02	回復までの日数
非直接性のまとめ	EV発症直後、ステロイド皮下注や抗生剤の使用、クーリング併用といった介入もなされており、ステロイド軟膏単独使用のみでの評価はできない。
バイアスリスクのまとめ	ステロイド外用の規格・用法等不明であり、ステロイド外用の種類選択の理由が不明である。軟膏使用以外の医療的介入があり、アウトカムへの影響は否定できないと判断できる。
非一貫性その他のまとめ	使用したステロイド外用薬および介入のタイミングに一貫性がない。
コメント	報告は全て症例報告であり、前向き研究等の報告がなく、有用性の評価が難しい。また、ステロイド軟膏塗布単独の介入の報告がない。

03	塗布部の皮膚障害(局所感染,皮膚委縮,毛細血管拡張等)
非直接性のまとめ	症例報告では、治癒後に生じる一般的な皮膚の色素変化と推察できるが、医療的介入による皮膚変化ではないとも断定できない。
バイアスリスクのまとめ	軟膏使用以外の医療的介入があり、アウトカムへの影響は否定できないと判断できる。
非一貫性その他のまとめ	特記すべき事項はない。
コメント	報告は1文献（症例報告）のみであり、前向き研究等の報告がなく、有用性の評価が難しい。